

吏職第三

蝦夷志拾遺

干時天明五乙巳年春以松本伊豆守秀持命
 于朝被遣山口鑲五郎高品菴原彌六宣
 藏軌起佐藤三月到松前分道行巡島中屬於
 玄六郎行信松前民村七十六其地謂蝦夷地然至彼村民
 及蝦夷人自古以漁業不知田耕守之人亦不
 為使教之納賦稅只引入他邦之商船以島中
 之產物為交易一利商人號運上或口錢使納

采金故商人自矜オコリ擅利土民及蝦夷人之憂
 年久而不止猶不能開國也依之具窺夷人情
 怨為商人所掠又悲不知耕聞請學國風飲清
 化於是願下法令加
 神恩使之教耕施王化不年國齊為清民何疑
 之有仍一二欲上表風土大槩比及歸府當草
 命之時有貶轉官職者是以困樂原伊豫守盛
 員カス雖奉此事唯此事曰止曾不問則委奏無便
 俛為考夫君子喻於義小人喻於利使喻利小

人^一知^中此地理若^{モシハ}為^二國之憂^ト是以^レ欲^ニ燒^レ而^レ為^サ灰^ト亦
似^レ有^ニ先^ニ命^一之恐^一尚^レ使^メ喻^ス義君子^ヲ察^シ此地理
治^シ蝦夷^ノ監^シ北狄^ノ之渡口^ヲ計^ラ事^ヲ宜^ク足^レ成^ス國之
幸

休明光記卷九

正敦朝臣

若年寄堀田
横津守

蝦夷地巡見終りて八月廿六日

文化四年
丁卯

松前小着孫小菅正容

伊右衛門

同日着あり

村上義雄

物監と中川忠英

飛騨守

廿七日着あり安論

戸川
飛前守

諸有司より一日後まで彼地を立一の旅中

川支ありて九月朔日松前へ到着す

各松前家士乃
定旅宿とす

此節ハ異國船之歸帆して静謐小成り殊小旬

季之後も家早渡来も成り來時亦少の夷

依竹酒舟の人數も歸國と勢松平政千代人數も

その當年ハ出張も及ます來年小到り差出

然るも猶其事ハ追々取調伺ふべきやと正敦

朝臣ハ議してまゐるもけるも其通ふと然るも

之のいままふより則其類執政方ハの中上書を

仕立八月廿八日村恒定行^左乃元追遺して進達

車を頼送るぬ南部九連討人數之車も先達より由治
有と波家より後念等ありこれ共討より少人數
少く當時差配方も不便利討追々相應の所用も有るハ達
厚き由をりき一其由六月中に府へてりあけ置あり

八月廿九日小は正敦朝臣工廿二見廻り空しく獲

駕し孫小諸有司隨て行事例のこ空しく安論を

来し蝦夷地より着せす正養羽古ハ松前小所用
安藝守

あふ小と架支配向討附添あるす巡見終る

九月四日小松前へ歸りつ家孫小

九月五日正敦朝臣立石野小と津輕勢の備立駈引

等を見分ししと小諸有司并安論附添あるす

備立駈引り次第其外と毛都と依竹家の例乃如

一此日森重頼負の火術船軍術を之見分し孫小

六日小は白神寄其外乃要地を見分し孫小附添

例のこ空しく

正養ハさ家小正敦朝臣より沙治し孫小昔もあ此

は翌十三日九月直小今別を獲し道を急いし行

程小十七日小は南部領一戸驛近到里努其時村垣

定行乃許より書状来り先達と異國船より戻さ

きし流南部家士大村治五平病氣ありしと岐氣小

於て是江府へ差出たり。或旨執政方より中へ書し給ふ
よ。中へ来り則其段松前表安論り許へ申送る。其よ
有。後々小旅行し十月六日小江戸小到り着ぬ七日
小は内届と。し。し。月番執政大炊頭利厚朝臣井土乃
内許へ参り例り如く廻勤登。城乃事を伺ひ中
せしに廻勤ハ勝手次第登。城ハ追々沙汰し給ふ
有。此ハ其法見合たり。由を中へ書し給ふ。小より
則廻勤乃みし。し。宅小歸る。その夕方村垣定行有
是進達物等。之。あ。は。内同人を以上し。若内也小

中へ。歳子細。是。あ。は。利厚朝臣乃内許へ。ま。あ。り。し。
是。内同人中へ。書。給。ふ。よ。し。達。き。し。し。小。より。則。来。辰
年。蝦夷地。内。固。人。數。乃。事。兵。工。ト。口。フ。島。内。所。置。乃
事。等。を。初。免。品。之。の。進。達。物。を。頼。之。又。内。也。より。し。し。
事。之。あ。此。定。行。も。此。内。用。を。取。扱。も。は。人。ふ。れ。ハ
素。より。秘。書。へ。書。し。あ。は。り。故。此。事。彼。事。と。書。え。あ
け。給。ふ。し。し。是。取。演。説。し。し。り

十月廿四日 文化四年丁卯 内納戸頭より内勘定吟味役菟帯川
尻甚五郎春之内勘定吟味役村垣左太夫

所前へ百出され松前奉行小 命きく此両士也之

三百俵より清加恩あり 春之ハ元高貳百五拾
俵定行ハ元高百俵 且是迄也後

所ハ箱館たりし以來松前へ移り安論正養の由

役名之松前奉行也唱ふ一歳より此日利厚朝臣より

書付を以達し孫ふ此時より松前奉行四人ふれり

十一月十一日ソウヤハ誥令する官吏共ハ内賞詞の事

あり其故ハ當夏四月異國船工トロフ島へ渡來り

折るクナシリ島小ハ下役向井勘助誥令より

工トロフ乃爭亂の事追々混進有小より賊船隣

島を犯すは程ふく此島へも來りし其

用意せき也定て先南部家勤番の者一達一會所

をけし免東西乃番所より昼夜心毛物見をせし

在令ハは番人蝦夷人共迄悉く呼集免賊船寄來り

時防方の手當を仔細小命一兵糧方化と毛手

分り差支さる様々用意し其頃ハ支配人稼方の

者亦定代り合り時首小く殊小少人數多其を

異國人上陸さ勢は事むつりたるハ且ハ武

威を以てせむせすハ是より有令する布木

綿等をとら出し旗指物幕の類を夥しく梅會
所をけし免處ころ山や或ハ海岬の船もも立つ
ぬ夜は所も小篝を焚嚴重小構へる程ふ山方小
住居る夷人共聞傳へ我もくとそ勢集り其圖
小應しそ防くしとそそ也もある則此夷人共
小命し昼夜懸り半弓毒矢を夥しく梅へ
又常小夷人の態をとるアマツボウと唱つて怒ふ
似るものある故其器を多く化ら勢海岸に
うちあふし賊船来は切放さんと構へる中
畧

又調役比企市郎右衛門は子モロアツケシクナシリ
勇持ふとアツケシ小浩居しりし彼騒動をぞとる
物え取あつたアツケシを獲しそクナシリ小
到り見ると防戦の自當家中たつ批を猶又勦助と
謀りさるく小自配し残る處をたたく備ふり畧中
是等のもとの共ハ何をも心懸よく覺えたる程よ
さ家小正敦朝臣の箱館小下りぬと一時具よゆえ
あけまをりきし小彼朝臣の一己をたたくまも小藤祠
し強て又惣内鯉兵衛等あやまちをもしめ

と歸里のまじりの今度執政方の事乃始末をせしむ
孩也一由ふと左のことう書取を下し孩ふ

調後 比企市郎右衛門

下後 向井勘助

調後並 深山守平方

下後 小川喜右郎

魯西亞船相見の防方と配之次第委細老

中流中達の亂心愈一脱之事の旨記す此後

中開譽置可記す事

右之内小川喜右郎ハ江戸小誥合外三人ハ彼地ふ
有るふより名代乃との共春之定行より渡り

関谷茂八郎見王嘉内等安論より紀の上口上書

并エト口フ島ハ誥居る南部津輕の家来共より

中五書其外乃書付類同年十二月初旬松前表安論

乃許より正養の方へ来る是いす正養の退職を

しらすは故をり依り其儘松前奉行へ送る此職を
退る

一車委く
政理の部ふあり

十二月七日山田鯉兵衛同十一日関谷茂八郎児玉嘉内
江戸著これハ奉文小記くの如く内呼出くよりて
也兼地惣内はエト口く有くし中く著くす

今按る小文化四年丁卯十月廿四日河尻甚五郎
村垣龙右夫兩人く 河前く石出くれく松前
奉行小く 命くよりく河役所を松前く移く
と松前奉行と唱られくより後乃事は蝦夷
総國乃事を江戸并松前小く議くれく是

之れ松前部小奉とくそれより上の事ハ箱館乃
部小奉多れハ併く見くるく

同書附録卷三

朱書

卯十月廿九日文化四年丁卯長崎役人田中源右衛門右田
浅右衛門、高橋三平より達く

長崎俵物方

役人

先達く松前西蝦夷地上く地く 作出く付此度引

渡相湫都の津用向於内役所取計以向此段中

達山

卯十月

朱書

卯十月十四日在之五人之三年之久住居

以之之内之役所内番人為中渡山

同書

岡口佐兵衛

神原守八

橋本治五右衛門

萩田善六

佐々木三九郎

岡本平吉

其方共儀先祖より當所三年古く住居之也乃

付此度内役所内門番へ新規内抱入高拾五俵

或人扶持之下

卯十月

朱書

卯十月十五日高橋三平中渡

栖愿屋

角兵清

代半助

角兵清儀蝦夷地所用初獲之物以戸表所用南
相勤之處病氣二付願之上以免中渡以此度松前
西蝦夷地一圓上地以作出以付松前表以用南再
勤中渡以林右邊引續可相勤角兵清儀不詰合儀付
代勤之積り可相心得以

朱書

卯十月廿四日大炊頭殿内直河尻甚五郎、沙渡

戸川筑前守

羽方安藝守

河尻甚五郎

村垣龙方丈

右松前奉行等 作付以中渡所之儀向後松前へ
引移以掾可致以何茂以没名之儀も松前奉行等
相唱可致中以
北征日記

十四日 文化五年 戊辰四月發松前假調官吉見方武在任

官高麗林平從焉村垣淡州定行及依吏輩及

會津候僊臺候南部候津輕候使者及其將校

裨各造餞曰馬門阪視鍛臺阪下街坊亦名馬

門町送者皆至此別云

邊警紀聞下卷

堀田攝津守等歸府羽太安藝守以下蒙嚴

譴

斯テ工ソ地穂ナリケレハ十月六日 文化四年 丁卯

羽太安藝守歸府中川飛彈守小菅猪右衛門

等モ追々ニ歸府アリケリ遠山左衛門ハ奥

常ノ海濱巡見トシテ津輕ヨリ常陸國鹿島

追通覽セラル扱モ羽太安藝守ハ此度ノ指

揮一モ圖ニ當ラス儉約ト號メ玉藥ノ午當

モ少ク諸事不埒ノコト、モ多シトテ十一

月十九日水野出羽守忠成ノ宅ニテ御目付

藤澤郷右衛門服部久右衛門申渡

當夏中魯西亞人工ト口フ島ハ乱妨之旨誥

合之、之のとも平日心懸不宣、解之儀、度を失て
防、小、阪、小、不至退去、畢竟常々中付不行届
故之所、之、取、締、相、懸、由、中、開、小、阪、不、都、合、之
儀、且、又、右、之、其、方、箱、館、より、中、出、方、其、外、取、計
鹿、忽、之、仕、方、不、調、法、之、至、依、之、内、後、沙、免
小、者、請、入、逼、塞、之、作、付、之、の、也

十二月廿七日、調役關谷茂八郎、児玉嘉内等
蝦夷工、ト、ロ、フ、會、處、ヲ、明、退、事、未、練、ノ、始、末、ナ
リ、ト、テ、追、放、セ、ラ、レ、同、心、羽、生、宗、次、郎、小、島、勘

藏糟屋與七八各江戸拂ニツ成ニケル此外
森重等モ皆追放セラレケリ、依竹、左京太夫
ハ、十八日箱館奉行書同廿四日未刻到着ニ
テ、廿五日未刻出勢スルコト、神速ナリトテ
奉書ヲ以テ賞セラル

奉行所附属ノ吏職ハ箱館部ノ委



蝦夷志料卷第九終



Faint vertical text columns on the right page, including the characters '圖書' and '大庫'.

